

日本企業は上海に集中しているが…、北京は近い将来 GDP で上海を追い越す

北京は上海を急速に上回る



陳言

日本企業の中国における経済活動を観察すると次のような特徴に気が付く。日本企業はかなり多くの経営主体を上海に集中し、北京は首都というだけで、日本企業が特に重視する都市にはなっていないことである。

例えば、北京の中国日本商会の会員企業はおよそ700社で、上海は2,500社前後である。駐在員数、出張者数、観光客数でも上海が北京を上回っている。日本企業関係者と話していて感じるのは、北京よりも上海について詳しく知っている人が圧倒的に多いことである。ほとんどの日本企業関係者が上海の方が経済力では北京を上回っていると考えているようだ。

確かに、長い間、上海の経済力は北京を大幅に上回っていたかもしれない。

1978年、改革開放が始まったばかりの頃、当時の北京のGDPはわずかに109億元で、上海はその2.5倍の273億元だった。中国で最も日本の技術を吸収した企業は上海にあった。宝山製鉄所である。ドイツが自動車工場の立地に選んだのも上海だった。

90年代、筆者は上海で、建設中のシャープのテレビ工場を見たが、想像を絶する規模だった。鉄鋼、自動車、家電では上海はもともと北京よりも強かった。首都鉄鋼所、中米合資の北京ジープ、北京牡丹テレビ工場も上海とは比べられなかった。

しかし、今では大きな変化が起きている。2019年版「中国統計年鑑」のデータから表のような北京、上海の実力差を知ることができる。

人口から見ると北京の戸籍人口は1376万人、上海は1462万人で北京は86万人少ない。

	北京	上海
人口	1 3 7 6 万人	1 4 6 2 万人
GDP	3 兆 3 2 0 億元	3 兆 2 6 7 9 億元
一人当たり GDP	1 4 万 7 6 1 元	1 3 万 4 8 7 0 元
国内3種特許申請数と授權数	2 1 万 1 2 1 2 件	1 5 万 2 3 3 件
技術市場成約額	4 9 5 7 億 8 2 4 6 萬元	1 2 2 5 億 1 8 5 7 萬元
大学数	9 2 校	6 4 校
大学教職員数	1 4 万 3 2 5 5 人	7 万 5 1 1 5 人
学生数	5 9 万 4 9 3 3 人	5 1 万 7 7 9 0 人

知中to知日

一人当たりGDPで見ると、北京は14万元(約224万円)、上海は13万5000元(約216万円)である。北京では上海を下回る86万人が生み出しているGDPは1200億元(約1兆9200億円)である。

GDP総量で見ると、北京は3兆320億元(約48兆4800億円)、上海は3兆2679億元(約52兆2,900億円)であり、その差は2360億元(約3兆8000億円)に達する。一人当たりのGDPを考えると、北京の方が高く、今年の北京のGDP総量が上海を上回るのは間違いないだろう。

北京が上海を上回っている最大の理由は、技術革新の密度と速度である。

例えば、2018年の国内3種の特許申請件数、授権件数を比べると、北京は21万件、上海は15万件だった。技術研究開発およびイノベーションの面でも北京は上海を上回っている。それは技術市場の成約額を見ても明らかである。同年、北京が5000億元(約8兆円)近くだったのに対して、上海は1200億元(1兆9000億円)程度で、北京は上海の4倍強だった。これらが北京の今後のGDP増加要因になるだろう。

特許、技術の主要な原動力は北京には多くの研究所、大学があることである。大学数(北京92校、上海64校)、大学教職員数(北京14万3000人、上海7万5000人)で北京は上海を上回り、学生数(北京59万5000人、上海51万8000人未満)でも多い。

上海を大幅に上回るイノベーション能力

北京のイノベーション能力は中関村を中心に次第に優勢になり、規模が優勢になり、資金収集が優勢になり、情報でも優勢になった。

北京大学、清華大学の卒業生の多くが、米国、欧州、日本に行き、研修し、就職し、その後、中関村に帰って来る。ここで起業し、あるいは関連企業に就職する。中関村には米国のグーグル、マイクロソフト等の企業、日本の日立、NTTドコモ、ソニー等の研究所があり、さらに阿里巴巴(アリババ)、騰訊(テンセント)、百度(バイドゥ)の北京支社がある。

上海でも復旦大学、上海交通大学の卒業生が欧米や日本に留学し、就職していることは知っているが、彼らは数年後に帰国すると、国営企業や外資企業に就職するケースが多く、イノベーションに携わる人数は多いとはいえない。また筆者は、グーグル、マイクロソフトが上海に研究所を設立した話は聞いたことがない。かつてアリババが上海に会社を設立したことがあったが、ここでは根本的に続けられないと気づき、浙江省杭州に移転した。

今日の上海は依然として強力な製造能力を持っているが、総合的に見て、研究開発に対する姿勢は北京に比べてかなり差がついている。しかも北京が過去40年の間に、一人当たりのGDPで次第に上海を上回り、今後、GDP総量で上海を上回る見通しなのは、北京には研究開発能力があり、経済力を持続的に向上できるからである。

上海には多くの日本企業が集中しているが、これらの企業が中国でより良い効果と利益を上げられるか否か、上海の地理的な条件から見て、今こそ真剣に検討すべき時期ではないだろうか。

先益(北京)科技有限公司 総経理

(出所: 知中to知日, WeChat 公式アカウント, 微信号 NEWS5931)